



■ テーマ名

高齢者の健康と地域づくり

■ キーワード

高齢者、健康、生活困窮、地域づくり、予防

■ 研究の概要

高齢化が進み、家族構成の変化により、高齢期を独居または老夫婦で過ごす人が増加しています。健康の問題を抱える中で、最期まで安心して生活を送ることができるのか、といった不安が人々の間には広がってきています。現実には、高齢期に初めて生活に困難をきたす人が多く、経済的困窮ではなくとも生活管理が自分ではできなくなり、生活困難に陥る人も増えています。体力の維持や認知症などへの予防講座や書物は人気を集め、実際に予防対策に取り組む人も多いですが、いずれ体力は衰え、何らかの病をかかえてしまいます。

高齢者の生活状態は①健康、②家族、③収入の3つの要因が大きく関わっています。これら3つの要因の関連を考慮しながら、実際に生活困窮に陥った人の相談記録をもとに、生活困窮の原因とそこに至るプロセスを明らかにしてきました。生活困難に陥りやすいリスク、また困窮を防ぐための介入ポイントなどを明らかにし、高齢者が暮らし続けられる地域づくりを考えています。

■ 他の研究／技術との相違点

多くの生活困難に陥った高齢者の相談事例をデータ化、統計的に分析し、代表的なリスクを明らかにし地域づくりへの示唆を行っています。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

- ・高齢者の生活困難を防ぐための地域づくりへのアドバイス
- ・高齢期を迎える方々への教育啓蒙

■ 関連業績

<講演>

- ・「高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくり」、第90回全国民生児童委員大会、2022年

<著書>

- ・単著『老後の生活破綻・身近に潜むリスクと解決策』中公新書、2011年
- ・共著 野田真里編『SDGsを問い直すーポスト/ウィズ・コロナと人間の安全保障』稲葉・西垣「第7章 高齢者とSDGs」法律文化社、2023年

<論文>

- ・「セルフマネジメント能力の低下につけこまれるとき」、特集『長寿は本当にめでたいか』、中央公論6月号、p48-p51、2013年
- ・「大都市における高齢者の生活破綻の現状と課題」、特集『超高齢社会・大都市高齢者支援の課題』、公衆衛生、第78巻第9号、p601-p605、2014年

■ 研究者から一言

高齢期に陥りやすい生活困難の原因は、社会背景の変化とともに大きく変わってきています。2011年に研究をまとめましたが、その後も新たなデータを加えながら分析を続けています。自治体や社会福祉協議会などにおける専門職研修、人権研修、企業研修などを担当させていただく機会は多いです。